

再稼働はしても、川内原発は問題が山積み 監視しよう。ずっと抗議行動を続けよう



▲対策「5年猶予」を決めた規制委に抗議

▲3号機(1~2号機の1.8倍)の増設を許さない

川内原発は2機とも再稼働しました。しかし、積み残しの問題は山積みのままです。

ないまま、再稼働しました。再稼働を早めたい電力会社と、規制委の「談合」によるものと言えるでしょう。

●「談合」による、主要設備の「5年猶予」

上の写真は、13年4月10日の規制委員会で抗議する人。なぜならこの日、重要な規制項目の実施の「5年猶予」を決めたからです。

内容は、「重大事故に対処するために必要な機能(すべて新規要求)」20項目中、9項目。川内原発で未完成な主要設備の例は――

●3号機増設の動きを、止めさせよう

次に九電が狙っているのは、3号機(159万Kw)の増設です。住民や議会の反対で、いったんは計画が消えました。しかし、1~2号機の再稼働の勢いをかり、増設の動きが出るのは必至です。

	施設	役割
×	免振重要棟	事故時の指揮所
×	フィルターベント	放射能拡散防止
△	水素濃度制御	格納容器爆発防止

水素濃度制御は、イグニッションで「小爆発」を起こして濃度を下げるといっていますが、危なくて仕方がありません。また2号機は「反対」の声を無視し、老朽化した蒸気発生器を交換し

原発を「過疎」化が進む町に押し付けるのは、差別です。住民を危険にさらし、町のまとまりを壊し、更に「過疎」化を進めます。みんなで流れを逆に進めましょう。薩摩川内市を、「原発のない町」に作り替えていきましょう。

「川内の家」ニュースは本号で終刊です。19ヶ月間たいへんお世話になりました。読者のみなさん、有難うございました。